

(熊本県立小川工業) 高等学校 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標

本校のすべての教育活動をとおして、校訓「誠実・剛健・礼節」を基底に置き、知・徳・体の調和に留意し、心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。また、「ものづくりを基盤とした人づくり」を実践しながら、社会の変化に的確に対応し、自立して未来を拓く主体性のある生徒を育成する。さらに、各科の特色を活かした取り組みを行いながら、地域社会から信頼される学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) 専門高校として、ものづくりを通じた人づくり教育を推進する。
- (2) 確かな学力の育成と進路実現に向けた取組を充実する。
- (3) 心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。
- (4) 地域に信頼され、特色ある学校づくりを推進する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標	教育重点目標の周知と達成度	・職員の共通理解を図り、生徒全員が重点目標をきちんと理解し、具体的な行動ができるようにする。 ・アンケートの周知の割合が、生徒・保護者ともに90%以上。	・職員朝会時における職員の意思統一を図り、教師から生徒への周知と指導を徹底する。 ・保護者会や情報発信による担任と保護者の連携強化	A	・アンケート結果から本校の教育目標や方針について、生徒の回答では昨年度よりもわずかながらも2ポイント上昇したが、今後さらに周知に努める必要がある。 ・保護者と学校との連携について、ほぼ90%を超えており、保護者会や安心メール、ホームページ等で積極的に情報発信した結果と考える。
	特色ある学校づくり	工業教育の推進	・ものづくり教育の充実 ・資格取得の推進 ・専門性を活かした進路実績	・工業系各種大会での活躍 ・ものづくり地域支援プロジェクトの推進 ・ジュニアマイスター認定者の増加	A	・エコ電レース全国大会「エコ電レース大阪大会」において総合6位、また、技術賞を受賞。「ジャパンマイコンカーラリー大会」においては通算6回目となる全国大会出場。また、「県ものづくりコンテスト」では「電子回路組立部門」で銅賞など、工業系各種大会で好成績を収めることができた。 ・昨年度末に立ち上げた「ものづくり地域支援プロジェクト」では工業高校の専門性を生かし、地域への製品提供、小学生ものづくり教室、出前授業などを実施した。 ・資格取得推進の指標となるジュニアマイスター認定数は34名で、昨年度より若干減少したものの、1名が特別表彰を受けた。また、技能検定優秀合格者に9名が選ばれた。
		部活動の充実	・部活動の加入率90%以上 ・県大会ベスト8以上 ・全国大会への出場	・顧問間の連携 ・部活動環境の整備 ・指導者の育成 ・リーダー研修	B	・部活動加入率は86.8%で、前年度より7ポイントダウンした。 ・レスリング部が県高校総体団体2位、新人戦で1名が優勝。弓道全国選抜大会個人出場。陸上競技部は県総体5名入賞、南九州大会及び九州大会出場。 ・各部活動の主将を中心にリーダー研修を2月に実施。 ・来年度以降は顧問向けの講習会などを計画し、指導力・緊急時対応などを向上させていくことが求められる。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	入学志願者定員確保の取組	・全職員による組織的な取組 ・中学校との連携強化と情報発信の充実	・進路説明会の充実 ・中学校や地域への広報活動の充実 ・中学生体験入学の充実	B	・中学校の進路説明会で本校の出身生徒が体験発表を行い好評で、また地域の催し物に作品等の展示を行うなど、広報活動を積極的に行えた。 ・体験入学後の１０月と１１月に説明会を実施し中学生５０名、保護者１７名の参加があった。
	学校改革の推進	校務改革の推進	・校務の効率的推進と「生徒と向き合う時間」の確保	・校務分掌の見直し ・報告、連絡、相談の徹底と各分掌間の連携強化 ・運営委員会、職員会議の効果的運営	B	・一人一分掌を掲げ本年度スタートしたが、部会で小回りが利き検討しやすくなった長所と、部内での業務の割り振り数等における短所が明らかになってきた。今後は、各部のリーダーシップが求められる。 ・会議においては、終了時刻の予告や事前に資料を配付する等、効率化に努め時間短縮につながっている。
		授業改革の推進	・生徒が主体的、対話的に学ぶ授業の推進	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・ＩＣＴを活用した授業の実践	B	・２回の公開授業週間中に、各科とも主体的・対話的で深い学びの実現やＩＣＴを活用した研究授業を行った。 ・アクティブ・ラーニングの授業づくりや授業デザインについて、県立教育センターのスクールサポート事業を活用し、職員研修を行い授業実践に生かした。
学力向上	基礎学力向上	基礎学力の向上	・授業評価アンケートにおける調査前宅習時間の増加	・習熟度別授業及び個別指導の充実 ・調査前学習会の実施 ・教室の学習環境整備	B	・数学と英語で習熟度別授業を実施しており、効果を上げている。 ・２学期末の欠点数が昨年度より３６減少した。 ・調査前宅習時間が２時間以上が５２％で昨年度より４ポイント減少した。
	自学力の育成	学習意欲向上と自宅学習の定着	・宅習時間１時間の確保と宅習の習慣づけ	・各教科による宿題や課題の工夫	C	・授業評価アンケートによると、宅習時間２時間以上２％、１時間以上８％、３０分以上３０％であり、宅習時間の増加のための方策を検討する必要がある。
	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	・年２回の公開授業、研究授業週間の実施 ・年２回の授業評価アンケートの実施	・公開授業、研究授業週間における教員相互の授業参観を充実させる。 ・授業評価を活用した授業改善	B	・年間２回の公開授業の中で研究授業を実施し、相互に授業参観しながら授業力向上に努めた。 ・年間２回生徒に授業評価アンケートを実施し、その結果を授業に生かすように努めた。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	進路意識向上と進路目標の明確化	・マナー教育を柱に豊かな人間性の育成と、主体的な進路選択ができる能力を養う。	・キャリア教育の充実	A	・計画どおりに実施することができた。最も大きな取り組みの一つであるインターンシップでは、２学年部が中心となり、これまでとは異なり、新たな内容となった。
	目標進路の達成	就職、公務員指導の充実	・進路内定率１００％ ・県内定着率の向上 ・早期離職防止の指導	・適正な進路指導及び徹底した面接指導と試験対策による就職・進学内定率１００％の実現 ・熊本しごとコーディネーターと連携した進路指導の充実 ・課外と学習会の充実 ・外部講師による職業講話の実施	A	・学校紹介の就職は早い時期に全員決定することができた。また、県内、県外就職の比率もほぼ昨年とおりであり、バランスのとれた実績をあげることができた。公務員については数年ぶりに自衛隊以外の職種の合格を果たすことができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育（進路指導）	目標進路の達成	進路指導の充実	・第一志望校合格へ向けた学力の向上 ・合格率100%	・定期的な模試の実施及びその後のモチベーションの維持と向上のための個人面談の実施 ・進学説明会やオープンキャンパスへの積極的参加	B	・定期的な模擬試験を実施することはできた。一方で、受験者の一人ひとりに対する細やかな指導が行き届かなかったこともあった。
生徒指導	規範意識	ルール・マナーを守る態度の育成	・問題行動の未然防止とともに指導の充実に努め、全職員で生徒指導を実施する。	・生徒指導部通信や安心メールによる重点指導事項の周知 ・学年集会、学科集会による指導の徹底 ・特別指導の充実（関係部署との連携）と継続的な指導	B	今年度は特別指導が多く、それらの指導で苦慮したが、職員間の連携は密に行うことができ、現在は落ち着いた生活を送る様子が見られている。生徒指導部通信等も定期的に発行し、指導の重点項目についての共通理解を図ることができた。
	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の確立	・挨拶を徹底させるとともに、遅刻を昨年度よりも減少させる。また、頭髮服装指導における一次合格者数90%以上を目指す。	・日頃からの挨拶、服装指導の徹底、毎朝の登校指導の実施 ・指導期日連絡の徹底 ・学年集会や科集会の実施	B	生徒指導部、また有志職員で毎朝登校指導を実施し、服装や挨拶など基本的な生活習慣の確立が図られた。頭髮服装指導ではクラスによって一次合格者数に違いも見られるため、学年集会や科集会をさらに実施することで、生徒間の意識の差を小さくすることが課題としてあげられる。
	交通安全	交通安全意識の高揚	・交通事故をなくす。 ・交通違反をなくす。 ・二重ロック率100%	・交通安全講話の実施 ・原付通学状況の不定期調査 ・原付通学生集会の定期実施 ・交通委員活動の充実（二重ロック点検等）	B	原付通学生の交通違反は一時不停止の1件のみであり、交通安全意識の高揚が図られている。しかし自転車の二重ロック施錠率は91%に留まっているため、防犯意識を定着することが今後の課題である。
	自主性、社会性の育成	生徒会活動の活性化	・生徒会行事充実のための企画や運営 ・委員会活動を活性化する。	・計画的な企画立案や運営と生徒会役員の自主性の涵養 ・各種委員会における積極的な活動	B	計画的な企画運営が図られ、また生徒会役員も自主的・積極的に活動する様子が見られた。委員会活動においては活動に差が見られたため、さらなる積極的な支援が必要である。
人権教育の推進	人権教育の計画的推進	<生徒対象> 人権教育に関する研修の実施及び事前事後学習と関連させたLHR等での学習の深化	年間指導計画による確実なLHRの実施 ・1年次：身の回りの差別 ・2年次：差別の現実 ・3年次：就職差別と人間解放	・学年会におけるLHRに向けた資料作成および事前学習会の実施	A	・各学年、HRや学年集会などで、人権意識の高揚に効果的な指導ができた。1年生に関しては、当初予定した内容を変更して、デートDVに関する講演を実施したが、身近に起こりえる内容で理解度が増して良かったと思う。 ・資料準備に関しては、時間的余裕がなかったものの、学年の先生方に協力していただき充実が図れた。 ・年度当初の時期に、学年会等でLHRの綿密な計画を立てる必要性を感じる。
		<教職員対象> 人権教育に関する研修を通じた意識の高揚	・人権教育実践委員会定例会の実施 ・校内職員研修の年2回以上実施 ・校外研修へ年1回以上参加	・校内職員研修会の実施 ・地区や県の人権教育研究大会への参加	A	・昨年の推進委員会より規模を縮小した実践委員会では、定期的・臨時的な会議を開くことができ機能した。（今年度5回実施） ・校外研修も積極的に参加してもらい昨年度より多い年間1人1～2回程度の参加を得ることができた。今後も予算を調整しながら参加を促したい。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	命を大切に する心の 育成	命を大切に する心を 育む指導 の推進	・関係機関と連携して講演会等を年3回以上実施する。 ・各教科において、命の大切さについて考えさせる教材を取り扱う。	・各教科、各学年、生徒指導部等が連携して、計画的に取り組む。 ・関係機関との連携を密にする。 ・各教科の指導内容を洗い出し情報を共有する。	B	・例年通り、年3回の様々な人権に関する講演会を実施し、特に命の尊さについて考えることができた。生徒の心に深く響く内容であった。 ・悩みを抱える生徒については、学校と外部機関との連携を重視できた。スクールカウンセラーとの面談も昨年度とほぼ同数の相談件数であった。
いじめの防止等	未然防止	啓発活動の推進	・いじめを許さない環境を整え、いじめが発生しない雰囲気を醸成する。	・いじめについて考えるLHRを実施する。 ・いじめ防止のための行動目標を設定する。 ・HRのみならず、学校生活の様々な場面においていじめ防止のための取組を実践する。	A	本校スクールカウンセラーによる講演会を実施し、ストレスに対処する方法を学ぶ機会を作ることができた。また、いじめについて考えるLHRを研究授業をもとに実施し、いじめの構造や普段起こり得る状況の中でいじめをいかに食い止めるか考えさせることができた。いじめをなくすためのスローガン「勇気は一瞬、後悔は一生」を策定し、生徒たちもこれらを意識した学校生活を送る様子が見られた。
	早期発見	いじめ発見の取組の推進	・年間3回以上、アンケート調査を実施する。 ・担任による面談を随時実施し、実態把握に努める。	・いじめ問題対策委員会が立案し、学期に1回学校全体で取り組む。 ・学級担任、教科担任、部活動顧問等が情報を共有する。	B	学期毎のアンケート以外にも、面談週間でいじめを訴えやすい雰囲気作りが図られた。しかし、いじめ状況が発生した場合の対応においては、職員間の連携が不足したこともあったので、今後は緊密な連携体制のもと、マニュアルに従って対応していく必要がある。
	発生した場合の対応	いじめの実態把握	・いじめの実態把握を迅速に行う。	・いじめ問題対策委員会を中心に、学年、学科、各部が連携する。	B	いじめ事案に各部各科で連携を図った。今後迅速に対応するために、更なる緊密な連携を図る必要がある。
		被害者へ対応	・被害者の心のケアを行う。	・スクールカウンセラー等と連携して心のケアを行う。	A	緊急性が高い事案にも、スクールカウンセラーに迅速に対応していただき、連携して解決につなげることができた。
		加害者及び周囲の生徒への対応	・加害者及び周囲の生徒に対して必要な指導と心のケアを速やかに行う。	・いじめ問題対策委員会が中心となって、被害者の思いを理解させる。	A	スクールカウンセラーを活用したり、また多くの関係者による会議と協力をいただき、反省を深めることができた。
	再発防止	再発防止のための取組の推進	・取組について検証を学期ごとに実施する。	・情報交換とともに、取組について検証を行い、取組の充実を図る。	A	定期的な情報交換を行い、事後指導やクラスへの呼びかけなど、再発防止に向けての取り組みを行うことができた。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	開かれた学校づくり	地域連携及び地域貢献	・地域の小・中学校及び支援学校との連携	・ものづくり教室等の実施 ・近隣小学校での本の読み聞かせ ・特別支援学校への教材教具の提供及び技術支援	A	・各学期に一度ずつ小学校での読み聞かせを実施した。また、これまでの取組に対して文科省の大臣表彰を受けた。 - 特別支援学校へ向けた教具の製作、贈呈を行った。主にポッチャ競技用の「ランプ」を製作し工業高校ならではのものづくりを生かした地域支援を行った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	開かれた学校づくり	地域連携及び地域貢献	・地域行事、ボランティア活動等への積極的な参加	・工業各科の連携による地域イベント参加、作品提供 ・各種ボランティア活動への参加 ・ものづくり地域支援プロジェクトの推進	A	・地域の祭り等へ参加し、本校の活動報告や作品展示・実演を行いPRできた。 ・ものづくり地域支援プロジェクトを立ち上げ地域の要望に応えるという、新しい形でものづくり支援を行った。施設・設備のメンテナンスやイノシシ捕獲用の箱罠の研究・製作、また地域の子ども達にむけた体験教室を実施した。
		防災型コミュニティ・スクール	・活動計画の作成と体制づくり	・定期的な学校運営協議会の開催（年3回） ・地域と連携した防災計画の作成 ・防災マニュアルの作成	B	・宇城市との協定書の締結に時間がかかったが、1月に無事締結することができた。 ・防災マニュアルについては、年度初めに今年度の各担当の役割を確認した。また、今年度版を作成した。
		家庭との連携	・PTA総会、学校行事等の保護者の参加率85%以上。	・保護者への学校情報の提供 ・PTA役員と連携し保護者の参加を促す。	B	・PTA総会の出席率は84.3%とほぼ達成することができた。 ・学校の情報提供もでき、また各学校行事に多くの協力をいただいた。
		学校の公開と情報の発信	・学校HPの充実 ・安心メールの活用 ・公開授業、研究授業の推進	・学校HP充実のため職員研修実施 ・年間2回の公開授業、研究授業週間の充実と保護者、地域への周知	B	・HP更新の職員研修を実施した結果、更新に携わる職員が増えた。 ・ホームページや安心メールに2ヶ月先の学校行事を定期的に掲載・配信した結果、外部からの問い合わせが減った。 ・PTA総会や学年別保護者会において授業参観を実施するなど、機会あるごとに授業見学を行う機会を設けることができた。
特別支援教育	特別支援教育への理解と推進	教職員の専門性の向上	・特別支援教育に関する自己啓発と共通理解及び推進	・研修会への積極的な参加 ・校内職員研修の実施	B	・各学年から積極的に研修会へ参加していただいた。 ・講師を招いての校内職員研修は実施できなかった。
		生徒の学校生活の保障	・多様な生徒への早期対応及び合理的配慮の提供 ・情報の共有	・生徒理解研修の実施 ・悩み等への適切なアドバイス ・生活面や進路保障に向けた適切な指導 ・健康教育部(教育相談)と学年及び学科との連携の充実強化	B	・生徒理解研修については各学期1回実施することができたが、特別支援関係の生徒が増えていく中で、今後は特別支援に特化して理解研修を開く必要がある。 ・新入生に対しては早期に把握するために、保護者に周知して申し出ていただく等、対策を考える必要がある。
教育環境整備及び安全	環境教育の徹底	環境美化への意識付け	・ゴミ分別、掃除の徹底 ・5S活動の実践 ・花植え	・外部機関との連携 ・委員会活動の活性化 ・缶やペットボトルの指定場所での回収 ・トイレ掃除マニュアルの見直し ・花壇の花植えと校内美化	B	・美化委員会を中心としてエコステーションで缶やペットボトルの分別回収を実施することができた。しかし、長期休業中の分別ができていなかった。 ・トイレ掃除マニュアルの見直しについては継続中であり、来年度以降に完成させたい。 ・校内美化については、今年度の問題点であった掃除場所の改訂を来年度初めに行いたい。
		省エネや省資源に対する理解	・電気使用量2%減 ・水道使用量2%減	・年4回、エコ通信を発行し、省エネや省資源に対する意識付けを行う。	B	・昨年度比、電気使用量2.2%、水道使用量15.7%削減することができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
教育環境整備 及安全	図書館教育の充実	図書館の利用促進	- 生徒一人あたりの貸出数13冊以上 - 朝の読書の徹底 - 蔵書の整備と充実	- 広報活動や図書委員会活動の充実 - 朝の読書の啓発と支援 - 読書や学習に資する図書の選定 - 蔵書の電算化と整備	B	- 生徒一人あたりの貸出数は11冊で目標に達しなかった。4ヶ月にわたる校舎改築による図書館閉館の影響もあるかと思う。 - 朝読書については、これまでの取組もあり、文科省の大臣表彰を受けた。今後の課題は、読書時間中の質の向上である。 - 古い資料の廃棄と専門資料の更新を逐次実施している。
	安全管理の徹底	危機管理意識	- 校内における事故ゼロ - 隔月の安全点検実施 - 自己管理意識を高める	- 危機意識向上の職員研修実施 - 安全点検による環境改善 - 生徒保健委員会の広報活動の活性化(事故防止、発生時の対応)	B	- 避難訓練実施前に職員研修を行い、職員の危機意識を高めた。 - 日時、出火場所を事前に公開しない防災避難訓練を実施でき、防災意識の向上につながった。 - 安全点検を昨年度より多く実施し、環境改善に努めた。 - 担当者研修の内容を復講研修することができた。
		危機管理マニュアル	危機管理マニュアルの作成	- 緊急事態発生時の訓練の実施 - 危機管理マニュアルの周知徹底	B	- 避難訓練が職員の避難誘導訓練であることの確認ができた。 - 年間計画通りに各訓練を行うことができた。
		健康管理	- 救急体制の確立 - 健康診断事後措置の徹底 - 健康観察の充実 - 熱中症対策	- 救急法講習会の実施 - 家庭との緊密な連携 - 職員の共通理解と情報交換の徹底 - 熱中症対策に関する職員研修の実施	B	- 救急法講習会は2年生全員と職員を対象に行うことができた。 - 熱中症対策で水分補給や生徒への啓発を行い、昨年度より救急車の搬送が減少した。 - 健康診断の治療勧告は夏期休業中だけではなく、冬期休業中も行っていく必要がある。

4 学校関係者評価

本年度、学校の教育活動においては、概ね高い評価をいただいた。特に、「教育目標や重点目標の明確化」、「特色ある学校づくりの推進」、「生徒の進路実現のための支援」、「校舎内外における美化」、「学校行事の充実」、「地域の行事への積極的参加」の項目で評価が高かった。

意見としては、「進路における対策がきめ細やかになされ結果につながっている」、「インターンシップをはじめ、本校職員の訪問等の取組が地元企業からの高い評価につながっている」、「特別支援学校への教材教具等の寄贈の取組が続いていることは評価に値する」、「ものづくり地域支援プロジェクトにおける地域団体との協同による取組は今後期待が持てる」等の評価をいただいた。課題としては、「今後は評価BがAになるような取組が必要であり、Cに関しては家庭と協力する必要がある」、「土木科への志願者を増やす取組が必要」があげられた。また要望として、「地元企業は人手不足で、地元企業への就職が少ないと地元の人口減少につながると懸念されるので、ぜひ地元企業へ勧めてほしい」、「他校においては面接指導で地域の人材を活用しているケースもある」、「学習意欲を高めるための取組を考えてほしい」、「進路変更の生徒については十分対応がなされているが、入学したからには全員卒業を求めたい」などの意見をいただいた。

これらの意見を真摯に受け止め、今後も特色ある教育活動の充実に向けて取り組んでいきたい。

5 総合評価

(1) 全体について

自己評価においては、9個の大項目に対して38の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果は、A評価が12個(31%)、B評価が25個(66%)、C評価が1個(3%)、D評価は0であった。昨年と比較すると、Aの割合は7ポイント増加し、Bの割合は8ポイント減少、Cの割合には変化が見られなかった。具体的には、学校経営、キャリア教育、人権教育、いじめ防止、地域連携において改善している。

学校評価アンケートのまとめでは、「本校に入学して良かった(させて良かった)」という生徒の割合は、80%(前年度86%)、また、保護者の割合は95%(前年度96%)で、若干生徒の割合が減少という結果であった。

(2) 本年度の重点目標について

①専門高校生として、ものづくりを通した人づくり教育の推進

学校評価アンケートでは「本校は工業教育の推進に積極的に取り組んでいる」という保護者が94%(前年度95%)、生徒が89%(前年度84%)で高い結果になっている。工業系大会では、エコ電カーが九州大会4連覇、全国大会6位入賞、マイコンカーラリーは5年連続全国大会出場の実績を収めている。ただし、資格検定ではジュニアマイスター認定者数はゴールド10(昨年度10)、シルバー19(昨年度29)、ブロンズ5(今年度新設)と昨年と比べると若干減少している。今年度から課題研究の時間に実施した「ものづくり地域支援プロジェクト」は地域から好評で、また生徒にとっても製品提供により使ってもらい喜びを感じるいい機会となった。

②確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実

学校評価アンケートの「学力向上のための積極的な取組」では、生徒からは81%と前年度から5ポイント増加し、「教え方の工夫がなされ、わかりやすい授業の取組」では77%で前年度から4ポイントの増加である。この結果から教師の授業に対する準備や工夫がなされ、生徒はわかりやすいと感じていると考えられる。主体的、対話的で深い学びに向かって取り組んでいる授業改善が確実に浸透していると考えられ、今後さらに継続、発展させていく必要がある。

進路実現については、進路指導部と3学年が連携して取り組み、就職試験の1次合格率は91%と高く、11月中旬には100%の内定を達成した。また、公務員については九州税務を含む7名の合格者を出し、進学についても推薦入試を中心に全員第一希望に合格を果たした。

③心身ともに健康で、豊かな心を持った生徒の育成

本校教育の根幹に人権教育を据え、常に生徒及び職員の人権意識や言語環境等の醸成に努め心の育成を図ってきた。それらを基本に基本的生活習慣や規範意識の確立に向けて、生徒指導部を中心に学校全体で連携して登下校指導や頭髪服装指導など、継続した取組を行った。いじめ防止においては例年よりも多くの職員研修を実施し、教師間のいじめに対する感性を高め早期解決に向けた早期発見、早期対応の共通理解を深めてきた。そして、その後の生徒への対応や命を大切に作る月間、人権週間時の取組にも生かすことができた。昨年度から生徒一人一人の参加意識を高めるよう、充実した体育大会や文化祭等の学校行事や部活動の充実を目指している。生徒が意欲的に取り組み成功を収める過程で自己肯定感を高め、学校全体で取り組む一体感や充実感、自己有用感の向上につなげようと取り組んでいるところである。

また、工業高校として、昨年度まで行ってきた支援学校との連携や地域との取組に加え、本年度から取り組んだ「ものづくり地域支援プロジェクト」によって地域連携の幅が広がり、多くの生徒達が地域との関わりを持ち「使う人のことを考えた優しさ、思いやりの心」を育成することができた。

④地域に信頼され、特色ある学校づくりの推進

今年度も工業高校の「ものづくり」の知識や技術を活かして、地域連携や地域貢献の取組をさらに発展させた。特に、本年度から取り組んだ「ものづくり地域支援プロジェクト」によって地域連携の幅や機会が広がり、多くの生徒達が地域貢献を行う意識が高まった。様々な祭りやイベントで運営や展示販売に携わり地域との交流を深めるとともに、本年度新たに地元小学校へのプログラミング出前授業を実施するなど、ものづくりの楽しさを伝えた。また、宇城市三角町の農家ハンターとの共同で行う「いのししの箱罟づくり」などが注目され、今後の課題研究等に期待がかかる。

近隣小学生への読み聞かせは11年目を迎え、それらの功績により本年度図書における文部科学大臣表彰を受けたことは、本校においてたいへん名誉なことであった。

今後も工業高校として「ものづくりを基盤とした人づくり」、「ものづくり技術を活かした、地域に役立つ学校づくり」を目指して特色ある教育活動の創造に努めていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

入学志願者確保のために教務部を中心に広報活動など、本年度も様々な取組を行ってきた。その結果、前期選抜1.99倍、後期選抜1.12倍と募集人員及び昨年度志願者数を上回ることができた。しかしながら、今後も少子化等の影響のなか厳しくなることは必至で、引き続き生徒募集の取組を充実させていかなければならない。

本年度、学校改革と働き方改革を推進し、教育の質の向上、職員の負担感軽減、生徒と向き合う時間の確保に取り組んできた。週1回の定時退勤日を導入し働き方改革も進んでいるが、今後も継続的に職員の健康管理に努めていく必要がある。

(2) 授業改善と学力向上

今年度は1年生及び2年生の教室にプロジェクターを設置したことで授業時に活用する教師が増え、また県立教育センターから来校いただき授業改善研修を行うなど、授業改善の取組を進めることができた。そのことにより生徒の授業に対する意識も高まっており、今後さらに新学習指導要領に向けた取組を進めていく必要がある。

また、生徒の家庭学習習慣の定着には教務部や学年部等がリーダーシップを発揮して、方策を具体的に示すことが必要である。

(3) キャリア教育の充実

インターンシップ委員会を円滑に動かすことができなかったことは反省すべき点であるが、企業の受入れ先の新規開拓を積極的に行った結果、昨年度までより多くの企業で実施することができた。望ましい職業観や勤労観を育成するとともに、地元企業への関心を高め将来県内定着率の向上につなげる充実したインターンシップとなるよう目指すことも大切である。また、進路講演や企業説明会など実施し、高校3年間を見通したキャリア教育を目指して計画的に進めており、さらに充実を図る。今後は、各種進路情報やインターンシップ等の体験活動を提供し、生徒に将来の目的や目標をしっかりと持たせ、それをもとに高校生活を充実させていかなければならない。また、二者面談や三者面談を充実させ、保護者や関係機関との密な連携を図っていく。

(4) 生徒指導の充実

SKB活動に基づいて、基本的生活習慣及び規範意識の確立に向けては日ごろから全職員で取り組んでいかなければならない。また、保護者には機会あるごとに学校の教育方針を説明し協力を依頼しながら、相互理解の下に生徒指導を推進していく必要がある。生徒には学業、部活動、学校行事などに意欲的に打ち込ませるとともに、生徒会活動の活性化など、生徒の自主性を引き出す取組を推進していきたい。交通安全については、重大な交通事故は起こっていないが、ひやりとするようなこと、軽微な事故・違反等は日常から起こっていることを意識させ、交通違反及び交通事故ゼロを目指していかなければならない。

(5) 工業教育の推進

特色ある学校づくりのために引き続き工業教育の充実を図っていかなければならない。本年度、ジュニアマイスター認定者数は昨年度より若干減少した。今後は工業高校の柱として資格及び技能検定取得の充実を図っていく必要がある。また、ものづくりコンテストをはじめとした工業系各種大会で活躍できる指導の在り方を検討し、実績につなげていきたい。さらに、本年度始めた「ものづくり地域支援プロジェクト」のさらなる充実を図るために、今後も地域と対話を深め地域貢献活動を積極的に取り入れ、より一層の地域連携を目指していきたい。